

科学フェスティバルinよねざわ2017 実施報告

技術部調整連絡担当 山吉康弘

「科学フェスティバル in よねざわ 2017」は7月29日（土）・30日（日）の2日間にわたって本学を会場に開催され、昨年度よりも多い延べ2111名の来場者があった。科学フェスティバルには多くの技術部職員が実行委員として運営に参画している他に、技術部から例年4～5つのブースを出展して協力してきたが、毎年数が増える傾向があるブースの場所の配置に実行委員会が苦慮していることから、その問題に配慮して今年度は技術部から地域連携担当の1ブースのみを出展とすることになった。地域連携担当では、自転車用のハブダイナモを手で回して発電し、それを動力源として、Nゲージ鉄道模型を走らせ、4人でその速さを競わせるという内容のブースを毎年出展している。同じ内容ではあるが競技だけあつてか、毎年子供も大人も熱く盛り上がり、1位になりたくて何度も続けて挑戦する子供が多い。昨年まで使用していたNゲージ車両のディーゼル機関車が老朽化してきたため、今年度子供受けも狙って4台ともに新幹線に新調した。小さな子供でも車体の色で識別できるようにと考えて、のぞみ（白色）、スーパーこまち（赤色）、はやぶさ（緑色）、かがやき（青色）を選んだが、予想通りに参加者にはとても好評で、例年にも増して多くの方々にブースを体験して頂いた。ブース数の状況が来年度以降も続けば、技術部からは各技術室と地域連携のいずれかがローテーションで出展することになるが、準備不足にならないように事前にブース内容の検討をお願いする。最後にブースの準備や実施に協力していただいた方々、実行委員会で尽力いただいた方々に感謝申し上げます。また、地域連携のブースを担当した2年間で実施しやすいようにいくつか改良したので下記に記録しておく。

○ハブダイナモを回すハンドルが緩まないようにダブルナット固定にした。

○個々のNゲージ電車の速度特性の差で競争時に不公平にならないように、発光ダイオード（LED）用の調光ユニットを利用して電車毎に速度調整ができるようにした。

○4台の電車をスタートラインに揃えやすくするために、電車毎に前進・停止・後退ができるようにした。

ブース協力者：佐藤和昭（統括技術長）、大橋栄市（地域連携担当）、鈴木健一（機器開発技術室）、鈴木勝人（情報技術室）、村上聡（計測技術室）、鈴木泰彦（環境・安全衛生担当）、山吉康弘（副統括技術長）

実行委員（技術部関係）：佐藤和昭（副実施責任者）、大竹哲也（ガイドブック担当）、鈴木裕幸（ホームページ担当）、三浦信一（記録担当）、山吉康弘（技術部調整連絡）

